

令和6年11月28日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

1 開 会 時 間 9 時 3 0 分

2 閉 会 時 間 1 1 時 2 4 分

3 教 育 長 名 和 田 智 司

4 署 名 委 員 藤 原 直 彦

5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏 名
○	教育長	和 田 智 司
○	教育委員 教育長職務代理者	藤 原 直 彦
○	教育委員	杉 本 か お り
○	教育委員	古 正 栄 司
○	教育委員	三 好 祐 太

6 出席者氏名	教育部長	椎 野 文 彦
	教育総務課長	田 嶋 卓 司
	教育指導課長	倉 重 成 歩
	教育指導課課長代理	高 谷 松 慶
	生涯学習課長	山 下 昌 志
	教育総務課教育総務班長	高 橋 梓
	教育総務課教育総務班主事	川 名 義 紀

7 傍 聴 者 3 名

8 調 製 者	教育総務課教育総務班主事	川 名 義 紀
---------	--------------	-----------

1 開会宣言

(教育長) 令和6年度11月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

藤原委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 11月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

(藤原委員) 気候市民会議について、5回を通して得られたことと課題等があれば教えていただきたい。

(教育長) 講演会のような形式で1、2回目は行い、その後はいくつかのグループに分かれテーマを決めて話し合い、最後は参加者が自分の思いをA3の紙にまとめ1分程度で発表を行った。今後、二宮の教育を学校や教育委員会だけではなく、町民と一緒に考えていくことが有効だと感じました。

(藤原委員) 点検評価の報告を行った際、意見等があったら教えていただきたい。今後、施策を推進するための参考としたい。

(教育部長) 政策会議では庁内に共有を行い、議員には控え室への配架までとなっているため、今のところ意見はない。何かあれば報告をさせていただく。

(古正委員) 小中特別支援の交流会について、保護者の方が大勢来られていた。中でも印象に残ったのは、保護者が学校の垣根を超えて話をされている姿を見たときに、貴重な情報交換の場にもなっていて本当に良いと思った。来年度以降も同じような形で続けていけると良いと思う。また、当日おやつ給食ということで、子ども達におやつが提供されたが、やはり人は食べることが大好きなので、支援級の子どもの中には、コミュニケーションや集団参加が苦手だけど、楽しみにしていたおやつのおかげで頑張れる子がいたり、おやつを食べながらコミュニケーションが生まれる子がいたりしてとても良かった。体育館での活動だけではなく、おやつまで考えていただけたのが、とてもありがたいと思った。それから祭り@西中を見に行ったが、生徒と先生が一緒になって踊っていた。この一体感が素敵だと思った。また、会場を見渡すと、西中関係者だけではなく、他校の生徒や小学生、小さな子も大勢来ていて、こういうものをみんなが楽しみにしていると感じた。このような場をより多くの町内の教職員に見ていただいて、にのみや学園として自校にどんな要素があると良いのか考えていただく良い機会にもなると思いました。今後もっと先生方にもPRをしていただいて、1人でも多くの先生が仕事としてではなく、自身の家族を連れて楽しめるような案内の仕方をしていただけると、負担感もなく参加できると思った。

本当にすばらしい取り組みだと思います。

（杉本委員）「夢見る校長先生」は、少し変わった映画だと思いますが、感想等はいかがでしょう。

（教育長）諦めることなく、地域とともに作りあげていく学校。また様々な子ども達を主役にしていると感じました。自分がまた現場に戻れたら、こんな流れを考えていきたいと思います。

（杉本委員）2月1日に小田原で上映するそうなので、学校関係者の方にも見ていただきたいと思います。

4 付議事項

（1）議案第18号 令和6年度二宮町教育委員会表彰被表彰者の選考について

（教育総務課長）令和6年度二宮町教育委員会表彰被表彰者の選考について資料に基づいて説明

－ 非公開 －

（2）議案第19号 令和6年度二宮町一般会計補正予算（第5号補正）（案）について

（教育部長、教育総務課長、教育指導課長、生涯学習課長）令和6年度二宮町一般会計補正予算（第5号補正）（案）について資料に基づいて説明

－ 非公開 －

（3）議案第20号 令和6年度二宮町一般会計補正予算（第6号補正）（案）について

（教育部長、生涯学習課長）令和6年度二宮町一般会計補正予算（第6号補正）（案）について資料に基づいて説明

－ 非公開 －

（4）議案第21号 二宮町学校運営協議会委員の委嘱について

（教育指導課長）二宮町学校運営協議会委員の委嘱について資料に基づいて説明

（教育長）委員に議案第21号について諮る。

委員全員賛成により、議案第21号は承認される。

5 報告・協議事項

(1) 令和7年度予算について

(教育部長、教育総務課長、教育指導課長、生涯学習課長) 令和7年度予算について資料に基づいて説明。

- 非公開 -

(2) 拠点校方式による部活動について

(教育指導課長代理) 拠点校方式による部活動について資料に基づいて説明。

(藤原委員) 実際に公共交通機関を使って移動するのは大変だと思う。そもそもこの話はニーズがあるものなのか、部活動の変革をしていく中の一環としてやっているのか。

(教育総務課長) ご意見をいただいているのでニーズはあります。ただ一方で今回改正をする経緯としては、二宮西中学校で野球部と陸上部の存続が厳しく子ども達が平等に部活動を行えなくなる状況がありました。部活動を理由とする指定校変更はありますが、指定校変更は友達と別れて他の学校へ行かなければいけないという敷居の高いものであったので、敷居を下げた第3の選択肢として、拠点校方式があったら子ども達が部活に参画できるのではないかと検討したところです。

(藤原委員) 人数にもよるが、教育委員会でバスを出すという選択肢はあるのか。

(教育総務課長) 現状においては、基本的には公共交通機関を活用していただくことを想定している。しかし、そこに関してはいろいろご意見があると思うが、例えば保護者の方が送迎をすることも不可とはしていない。

(古正委員) この資料を見たときに、どうしてにのみや学園がついてないのかと考えたときに、中学校に限ることだからなのかと思いました。にのみや学園と考えると、小学校の先生達がどの程度この拠点校方式について知っているのか、あるいは議論に加わってきたのか疑問に思う。子ども達はやがて中学校に進学するので、この子ども達にとってもより良い環境や部活動のあり方が、準備されていることが望ましい。また、小学校6年生になると、担任は保護者から部活について質問される。そんなときにわからないでは良くないと思う。おそらく推進するにあたって、充分時間をかけて協議されてきたと思うが、もし充分ではなかったという反省があれば、にのみや学園、小中一貫教育を鑑み、中学校や小学校と分けることなく一体として取り組んでいただくようお願いしたい。

(藤原委員) 実際ににのみや学園と記載することは違和感ないと思っているがいかがか。

(教育総務課長) 要綱等も含めて修正していく。

(教育部長) にのみや学園がスタートする前は、小学生が中学校に行って部活動を体験するのは1回だった。しかし、事前に知れる機会を増やすために、小学校と中学校の交流する機会が3回あるうちの2回は部活動の体験ということで、機会を増やしている。また

今後そういった機会が必要だというニーズがあれば、見直していきたいと思います。

（教育長）県の中体連が昨年度から拠点校部活動を始めて、実際に愛川町では野球部で行っている。事務局から説明があったように子ども達のやりたいことをやらしてあげたいという想いでスタートをしている。これからまたいろいろと変更があると思うが、町としては、まず子どもにやりたいことを転校せずに仲間とできることを考えていく。運動部だけじゃなくて、文化部も同じように考えています。ただ運用していく中で、いろんな課題が出てくると思う。実際に昨年度から、両中学校の担当や管理職とかなり話し合いをしてきた。ここに来ていろんな課題が見えているし、これからも出てくると思う。だからこそまた学校と話し合い、良いものをやっていききたいと思っています。

（３）標準指定服制作業務事業者選定プロポーザルの実施について

（教育指導課長代理）標準指定服制作業務事業者選定プロポーザルの実施について資料に基づいて説明。

（藤原委員）アンケートは、選考委員会だけではなく生徒からも取るのか。

（教育指導課長）始めはプロトタイプだが、その後試作品を各学校で飾っていく。その中で、生徒から意見があれば、取り入れられるものは取り入れていきたいと思う。

（藤原委員）デザインの権利が校長となっているが、にのみや学園の学園長や教育総務課などの選択肢も考えられるが、校長が適切なのでしょうか。

（教育指導課長）文科省では制服の権利・権限は校長にあると示しているので、同様としている。

（藤原委員）小中一貫をやっている中で、2校の校長がそれぞれ持っているのは違和感があるので検討いただきたい。

（教育指導課長）検討していく。

（藤原委員）今後新しいオプションが出たときに、今回の業者とは関係なく選択できるようなプロポーザルになっているのか。

（教育指導課長）あくまで今回はメインのブレザーの部分でのプロポーザルとなっている。しかし当然プロポーザルをやっていく中で業者よりオプションについて話があれば紹介していきたいと思う。

（藤原委員）2、3年後にこんなオプションをつけたいとなった際、業者が指定されていなければ良いと思う。また、生徒数の増減により、将来的に値上がりなどが想定されると思うので現在の生徒数だけではなく、減衰推移も記載してはどうか。

（教育指導課長）全国的に児童生徒の人数は減少傾向が見られているので、特には必要ないと考えている。

（藤原委員）言った言わない論争にならないようにしっかりとマネージした方が良いと思う。また、小中一貫を考えていく中で、制服ですら7年度から13年度によりやく新制服

への移行が完了するとなると、もっともっと時間を要すると思いました。

(教育指導課長) 小中交流会の中で、二宮西中学校の生徒が制服をテーマに小学生に発表しているものがあった。その中で全国的に好まれている制服ランキングがあり、男子の1位がブレザーで女子の1位がセーラー服、2位がブレザーだった。その際に参考に生徒達に聞いてみたら、ブレザーが良いと言っていたので、検討委員会の結果は間違っていないと思いました。

(三好委員) 移行期間中に関しては、新たに旧制服は購入できるのか。

(指導課長代理) 新たに旧制服を購入することはできない。移行期間中の旧制服の着用に関しては兄弟姉妹等のおさがりを想定している。

(4) その他

(古正委員) 11月8日に令和6年度神奈川県市町村教育委員会連合会研修会に参加したので、概要を報告します。鎌倉市の前教育長で現在文科省に戻られた岩岡氏が講師をされており、教育委員の皆様と聞いても良かったと思うくらい良い内容でした。今回この研修会への参加を希望したのは、「子どもも教師もわくわくできる学校教育を作ろう」という演題に惹かれたためです。文科省の役人の講演は解説が多く眠くなることもあったが、これは面白かった。大事なのは、子ども達がわくわくするためには、何よりも教師がワクワクすること。こんな授業をやったら絶対子どもが食いついてくる、そんな子ども達が目を輝かせる様子を想像しながら、授業を考えている時は教師にとって最高の時間。まさにそういうことができる環境をどうやって鎌倉市で作れるのかを教育長時代に考えていたそうです。そしてそれをベースに今度は文科省の教育課程の学校教育官として、全国で講演をされているそう。ICTやAIをどうやって駆使して、活用して、未来を担う子ども達を育てていくか。私自身も学級担任時代には自分自身がわくわくしながら授業を作ってきたつもりだが、もう一度学級担任やってみたいと思った。

(教育長) 古正委員のメモに、「不安で怖いと大人が思う未来は、子どもにとっては生きていく、当たり前の世界である」と記載がありましたが、そのことを考えていくことが必要だと一番強く思いました。

－ 次回教育委員会予定 －

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

11時24分 閉会